



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください <http://www.amano-shingo.info>

「瓢箪から駒」となるか…マカオ直行便の夢

県民注視の中で、愈々、富士山静岡空港は開港まで僅か8ヶ月を残すところとなりました。

正直、現在までに決定している静岡空港の就航先は、与党として応援する立場の私達ですら極めて心もとない状況下にあると云わざるを得ません。

即ち、現在までに就航が決定している路線は国内線では1日札幌2便・福岡3便・沖縄1便の国内3路線と外国ではソウル1便が決定しているに過ぎません。

勿論、県の担当者は鋭意、中国や台湾などの新たな路線の開拓に努力していますが、近年、航空業界は相次いで採算割れの路線から撤退を余儀なくされているところでもあります。

しかし、私たち県民が大枚の税金をはたいての静岡空港であれば本県の持つ景観や特徴を存分に活かし、新たな需要を喚起させ、「みのもんだ」のぼろくそな指摘と嘲笑に反駁すべく当局と一体となって最善の努力を払ってまいります。

さて、6月1日～4日まで私は県議会の「カジノ」誘致議連の7名と共に近年、急速に台頭してきた「マカオ」を訪ねました。

実は、2年前程前、県議会企画委員会の席上で「静岡空港の就航先として香港より将来的にはマカオの方が需要は多いだろう」とマカオ路線を推薦した経緯がありました。

勿論「香港」は国内の空港にとつて、引く手数多の看板路線であります。殊にバブル時代は女性の買い物ツアアの「メッカ」として大変な人気でありましたが、最近では「香港・マカオ」のツアーも徐々にマカオへ重点が移っているようであります。

そのマカオには数年前海を埋め立てて誕生した

3400メートルの滑走路をもつ「マカオ国際空港」があります。未だ日本への就航は僅かであり、定期便としては「関西国際空港」のみと聞いております。

さて、私達マカオ視察団は予めアポイントしておいた「ビバ・マカオ航空」本社を訪ね、霍智傑社長らと2時間余り、静岡県の紹介と富士山空港について宣伝する傍ら、来年3月開港の静岡空港にビバ・マカオ航空の就航を要請したところであります。

この航空会社への訪問は、正直云って私の勝手な思惑から企画したものであります。

殊に香港・上海の路線が県当局の努力にも拘らず

「本当にサマータイムを導入するの」

またぞろ日本の夏時間が政治課題に上り始めたようです。

若い皆さんは諸外国では普通に行われているサマータイム制度について大きな違和感はないでしょうが、中年の皆さんにとっては、苦い思いのシテムであります。

実は日本でも昭和23年から26年まで導入した経緯がありますが、しかし目論見は外れ、27年4月には早々と廃止いたしました。

更に、平成11年にもこの「サマータイム」実施の議案が国会に提出されそうになったものの、戦後間際のバカバカしい経験を知る高齢者の猛反発に、敢え無く引っ込んでしまったのであります。

しかし、この度の「導入の意図と意気込み」はこれ

具体化してこない現況を思えば、近い将来確実に脚光を浴び、アジアを代表する観光地として成長するマカオ路線を、羽田や中部国際空港が触手を伸ばさない今こそアタックする絶好のタイミングと考え企画したものでした。

率直に云って、当日私達が受けた「ビバ・マカオ社」の予想外な好意的姿勢はヒョットして「瓢箪から駒」となるのではと訪問した全議員の共通した思いでした。

一方、今回初めてカジノの現場を訪れた議員にとつて、最近完成したばかりの「ベネチアンホテル」のカジノフロアの威容さに驚き、更にその事業費が総額2000億円と聞いた時、カジノ産業が齎す経済効果に驚嘆しながらも、仲間たちの脳裡に改めて「日本平カジノ構想」が鮮明に理解されることとなったのであります。

までとは少々異なり、省エネや環境対策という問答無用のテーマが付随し、今回は当局も強気のようにあります。

ところで、サマータイムとは一言でいえば日本中の時計を1時間早めることであります。

そのことをシミュレーションすれば、サラリーマンの場合例えば7時半に出勤し、勤務終了が4時半となります。燦燦と輝く太陽の下、上司を尻目にあなは悠然と退社できますか？

嘗て実施したサマータイムの際も実質的には労働時間が延び、企業側には大変な利益を齎したようですが、勤労者には誠に不評な制度でありました。

諸外国では常識かもしれませんが、日本人にとってこの制度の導入については矢張り辞退すべきではないでしょうか。



曲金の地名と軍神社の由来

市外の方に『曲金』の文字を見せて、これを素直に「まがりかね」と読む人は決して多くはないでしょう。地名としても「変わり名」の部に属するでしょう。

『曲金』の地名の由来は昔からこの地域の水田が恰も「金尺」で測ったように、整然と区割りされていたところから名付けられた地名と云われております。

曲金6丁目に位置するグランシップの駐車場だった場所では現在、埋蔵文化

財の調査が行われております。

過日、私はこの現場にお邪魔して調査員に進行状況など「素人が素人なり」に勉強してきました。

成る程、調査の現場は基盤の目のように整然とした条里制の遺構を留めておりました。

いずれにせよこの界限は奈良時代からの穀倉地帯であったことは小字に蔵前坪の地名が示しており、また『豊田』の

名前も昔からの米どころであったことを示しております。

軍神社は曲金2丁目にあり、市民には8月の例祭に際し打ち上げられる花火がお馴染みであります。

伝説では日本武尊がこの地で戦勝を祈願したのがこのお社の始まりともい、或いは有渡郡の役場と軍団がこの地に置かれ、軍神を祀っていたとも言われています。

一寸一言 私の雑記帳から

お堀の亀

幼い頃、父の出生地である掛川のはずれ「平島」に、夏休みのひと時、兄弟と一緒に屢々訪れ、山や川を友として遊びまわった思い出がある。

田圃に棲みつく「タニシ」を石で潰して「うげ」に放り込み、これをせせらぎに沈めておく。翌日の早朝、「うげ」につけた浮を目印に引き上げれば必ず1〜2匹のウナギが入って

いた。

その川岸には夏の太陽を背にうけ、のんびりと甲羅を干す石亀の姿をみつけた。目一杯に首を伸ばし、動く気配をみせないこの亀に何故か愛着を覚えていた。

その思いは遂に生涯の感覚となつて、今でも亀を見れば暫くそこに佇んで眺めているのである。

現在は駿府公園のお堀に何匹もの亀が水面に浮かんで太平楽を決め込んでいます。

散歩の途中、私は何時ものように付属小学校の向い側に、誂えられた

コンクリートの防護壁に、5匹の亀が一行となつて甲羅干しする姿を発見、暫しその場に足を止めて眺めていたが、その瞬間、私の脳裡を他愛もない疑問がよぎつたのである。僅か10センチもない幅に行儀よく隙間なく並ぶにはどうするのだろうか、まさか後から来た亀が「もっと前に行くてください」などの掛け声を掛けているとも思わないが。



「暑中見舞い」をあのひとに

7月20日から8月8日までの土用の期間中を「暑中」といい、この時期に出す夏の挨拶状を「暑中見舞い」といいます。江戸時代には、酷暑が続くこの時期に、夏負けを防ぐための食べ物を持参して大切な人を見舞ったそうです。これが「暑中見舞い」の原型で、大正時代に入ると現在のようながきのやりとりが習慣化します。

「暑中見舞い」は、ごぶさた続きの知人や友人に気軽に送れる便利なコミュニケーションの道具。年賀状を遅くいただき、返信するタイミングを逃してしまったとか、引越し通知を出し忘れたという場合も、「暑中見舞い」を上手に使うといいでしょう。

すっかりメールが定着した昨今ですが、手書きのはがきの良さを見直すかのように、文房具売場には素敵ながきがたくさん揃っています。また、郵便局でもくじつきの夏らしい「暑中見舞い」はがきを販売しています。今年の夏は早めにはがきを用意して、梅雨の間から「暑中見舞い」を書き進めてみてはいかがでしょうか。

勉強会のお知らせ

日時 7月18日(金) 19時より
場所 天野進吾事務所
講師 (助)静岡健康管理センター
所長 遠山和成先生

(元県立総合病院副院長)

出席ご希望の方は、事務所迄、ご連絡をお願いします。

TEL 054 (245) 7474

FAX 054 (246) 7463

※駐車場の準備がございませんので交通機関をご利用下さい。